

# 理研会報

発行  
印教研理科研究部  
事務局  
成田市立成田中学校  
成田市土屋928-1

## 部会理科実技研修会報告

### ・一部会



研究部長 中村芳雄先生  
一部会 西井宮 白

平成十四年八月七、八日実施  
会場 国立歴史民族博物館  
内容 くらしの植物園における  
アサガオ等の観察  
博物館の施設見学、講義

歴博講座を受講して  
佐倉市立南部中学校

木村光之先生

くらしの植物園でのウリとヒョウタンを観察と講師の先生の講義が非常に勉強になりました。めずらしい雑草メロンの生態や自由な交雑により大きさや形が多様な果実を付けることなど驚くことばかりでした。また、ヒョウタンとは本来、器を指すことで、ウリやカボチャが韓国や東南アジアにおいてヒョウタンとして売られていることなど興味深く聞かせていただきました。また、大学卒業以来じっくり

ケッチをとることなどなかったのになかなか特徴をとらえられず、自身自身の研究不足を痛感し反省するばかりです。  
劣性遺伝により形質を持つ変化朝顔は、江戸時代から作られていたことなども勉強になりました。  
佐倉市に在住、勤務する者として今後は特別企画等、積極的に参加し研修を深めたいと思います。

### ・二部会



研究部長 中村芳雄先生  
二部会 小岡勝美先生  
中片

平成十四年七月二十六日実施  
会場 生体科学研究所  
内容 生体科学応用研究所  
遺伝物質の分離抽出、見学  
血液ガス交換モジュール  
生命の復活と成育の過程

当日は、小中併せて十一名の参加があった。生体化学研究所では、オリエンテーションに続いて、午前中は「動物の体のしくみ」とのこと

### ・三部会



研究部長 中村芳雄先生  
三部会 中瀬実先生  
小林片

平成十四年八月一日実施

今年度の実技研修会を白井市にある白井文化センター内のプラネタリウムで行った。講師にはプラネタリウムの長谷川好世先生（元白井市立大山口中学校教諭）をお願いした。

内容は、①太陽の黒点の観察（太陽投影版に映す方法と眼視観測用サンングラスを使う方法）  
②月の写真撮影（望遠鏡にカメラ、あるいはデジタルカメラをセットし撮影、デジタルカメラはパソコンで画像処理まで、当日は西の空に雲があつて月が見えなかったため遠影を撮影）  
③プログラムの観覧（一般の方

に混じり、夏の星空についての話を聞く）  
デジタルカメラは撮影後すぐに画面に映し出せるのでとても便利で

ある。プログラムは季節ごとに変わり、内容もおもしろい。プラネタリウムから「校外学習などでどんどん利用してほしい。」とのことでした。

### ・四部会



研究部長 中村芳雄先生  
四部会 南井幸先生  
八村

七月二十六日の午後より、八街市立川上小学校近くの荒地地区において「里山を中心とした動植物の観察会」を行いました。三十度以上の暑い中、八街市教育委員会の先生をはじめ、市内小中学校の先生方二十六名が参加しました。講師には、白井市立南山小の川邊久男教頭先生をお招きしました。単なる草花

が、川邊先生によつて、一つ一つの生物として紹介されました。実際にふれることの大切さ、似た植物の見分け方、発見する喜びなどを学ぶことができた時間でした。最後には、カメラを追い払うオオタカを間近で見ることができ、参加した職員に強く印象づけられました。今回の研修会は、例年とは違う内容でしたが二学期の現場で生かされるものとなりました。先生方が満足げに帰られる姿も印象的でした。（双眼鏡を逆に見ると顕微鏡がわりになることを初めて知りました。）

### ・五部会



研究部長 中村芳雄先生  
五部会 北井道一先生  
四角

八月六日、佐原・銚子方面での野外研修を実施した。社会科研究部と合同で実施し、共通する内容を研修する点が五部会の特徴といえる。午前中は佐原で伊能忠敬記念館を廻り、当時の測量技術をつぶさに見、その業績を見学した。午後は銚子に向き、茂原高校・細川隆先生（千葉県生物学会会員）にご指導いただきながら、海岸の植生渡海神社の極相林、外川付近で磯の生物の観察等を行った。

・参加した会員からの声

中央小 山本友子先生

ペットボトルを使った魚取りはとても良いアイデアで、夏休み中に海に行ったらぜひ試してみようと思いました。また、植物の名前もたくさん知ることができました。

和良比小 中島均先生

海浜植物の様子や名前等は知識としてはあつても、実際に見て説明を聞くことができて良かったです。樹高が風の影響で海側で低く、海から離れるにつれて徐々に高くなること、簡単な生物の捕獲器など、なる程というこ

とが多く、暑い一日ではあったが、有意義な研修であった。

四和小 長谷川直樹先生  
フィールドワークを行い、改めて理科の学習で直接経験の大切さを感じた。子どもは知識獲得よりも活動したいという欲求が高い。生物教材の場合、実際に生息する様子を見て学習を進めることは大いに効果のあることだと考えた。そして、その効果をあげるためには、指導者側の十分な知識、経験、さらにそれに基づいた計画性が必要だと強く感じた。



恒編佳米依俊記

理研会報第二九六号をお届けいたします。今回は、各部会研究部長の写真を掲載いたしました。会報の発行にご協力をいただいた多くの先生方に感謝しています。次回は「印教研集会」についてお届けします。

投稿等につきましては、各研究部長にお尋ね下さい。（印教研理科研究部事務局）